特集　15年のあゆみ

研修会活動の歩み

松　本　純　子
（住友病院図書室）

Ⅰ　研修会のあゆみ

昭和49年11月に設立された近畿病院図書室協議会（病図協）の第1回研修会は50年1月に開催された。元北野病院図書室司書の朴木貞子さんによる講演「病院図書室の在り方と任務」で、初回としては予想を上回る30名（内非会員8名）の参加者があった。会場は国立大阪病院布施記念会館、会費は500円であった。初めて参加する研修会に期待と緊張感をもって受講したことや、第1回の研修会としては高度ではあったが、朴木さんのライブラリアンシップについての経験を踏まえた説得力あるお話に、大変刺激を受けたことなどなつかしく思い出す。

1年目の研修会の方針には、「図書室の実務を中心にし、その中で医学の基礎知識を身につけ、ライブラリアンシップを養う」とある。計画どおり第1回が総論（病院図書室の在り方）、第2回以降は各論としての図書室の実務（分類・目録、閲覧・貸出、逐次刊行物の受入、レファレンスサービス）を取り上げ、講演、講義、事例研究、実習、見学とあらゆる形式により行っている。1年目から大変意欲的に取り組んでいる姿勢がうかがえる。また、この年は8回開催されたが、参加者数平均20名は、当時の会員数が35機関程だったことを考えると高い出席率といえよう。

研修会はこの3月に開催予定の事例報告会で57回を数える。表1は各年度のキーポイントをまとめたものである。

また、表2は57回の研修会のうち、全国研を除くテーマを内容別にまとめたもの、表3は57回の開催地を地区別に示したものである。なお、現在までの研修会担当者は表4の通りである。

表1.　研修会15年間のあらまし（1975～1989）

年　度	主　な　こ　と　が　ら
1975	・実務中心に8回（内7回は半日）開催。 ※2年目からは年3～4回（1日）開催。
1976	・第1回事例報告会開催。
1977	・パネルディスカッション「病院図書室を考える」を行う。 （病院図書室をレベルアップするためには、担当者の努力だけではなく、病院の理解も必要と考え、病院管理者や図書室利用者にパネリストとして参加してもらう。） ・オンライン文献検索を取り上げる。
1978	・初心者向けに図書室実務全体を取り上げた「病院図書実務のあらまし」を行う。 （これまで講師はすべて外部から招いていたが、初めて図書室担当者が講師となって行う。「病院図書室マニュアル」作成のもととなる。以後同じような内容で、「病院図書室基礎講座（1981）」、「病院図書室の実務（1982）（全国研）」、「実務のポイント（1983）」を行っている。）
1979	・日本病院会主催の全国図書室研究会を共催する。（1回目：大阪）
1980	・「医学用語の基礎知識」を年間テーマとする。

表１のつづき

年　度	主　な　こ　と　が　ら
１９８１	・近畿地区の 200 床以上の病院に案内状を送付。会員外より18機関の参加があった。（会員拡大）
１９８２	・全国研共催。（２回目：大阪）
１９８３	・中国四国地方病院図書室研修会開催。 ・図書室実務の研修指定病院が設置される。
１９８４	・「医学資料の整理と利用 ― 病院図書室マニュアル ― 」が発行される。 （研修指定病院の設置、上記マニュアルの発行により初心者向け研修会は廃止する方向へ） ・全国研共催（３回目：大阪）
１９８５	・国立民族博物館見学会を行う。 ・「病院図書室マニュアル」をテキストに使った研修会を企画。現在も継続中。
１９８６	・全国研共催（４回目：京都）
１９８７	・東販大阪支所を見学。
１９８８	・事例報告会等の発表者に対する助成金制度ができる。 ・全国研共催（５回目：大阪）
１９８９	・名古屋研修会開催

表 2.　研修会テーマの内訳（1975～1989）

図書室実務	３２	
資料整理		１１
レファレンスサービス・文献検索（二次資料の使い方含む）		１０
実務全般		4
相互貸借		3
閲覧・貸出		2
医学資料の知識		1
統計調査		1
事例報告会	１４	
医学用語・医学の基礎知識	１０	
病院図書室・図書館員概論	6	
図書館の設計	1	
医学出版情報	1	
学術雑誌について	1	
米国図書館	1	
図書室業務のコンピュータ化	1	
研修会について	1	

表 3.　研修会の開催地（1975～1989）

開催地	回数	会場（回数）
大　阪	47	病院（40） 大学（2） その他（5）
京　都	7	病院（3） その他（4）
兵　庫	2	病院（2）
滋　賀	1	大学（1）

表4. 研修会担当者一覧表

年　　度	担当者氏名　（所属病院）
1975（S.50）	重富久代（京都市立病院）、松本純子（住友病院）、福味美津子・北沢洋子（国立大阪病院）、山室真知子（京都南病院）
1976（S.51）	重富久代（京都市立病院）、松本純子（住友病院）、加島民子（大阪回生病院）
1977（S.52）	加島民子（大阪回生病院）、松本純子（住友病院）
1978（S.53）	加島民子（大阪回生病院）、千住とも子（日生病院）、重富久代（京都市立病院）、松本純子（住友病院）
1979（S.54）	加島民子（大阪回生病院）、松本純子（住友病院）、山崎捷子（淀川キリスト教病院）、北村きみえ（松下健保健康管理センター）
1980（S.55）	泉谷嗣郎（大阪赤十字病院）、北沢洋子（国立大阪病院）、北村きみえ（松下健保健康管理センター）、松本純子（住友病院）
1981（S.56）	泉谷嗣郎（大阪赤十字病院）、北沢洋子（国立大阪病院）、秦千絵里（宇治徳洲会病院）
1982（S.57）	加島民子（大阪回生病院）、泉谷嗣郎（大阪赤十字病院）、安達貴美子（西淀病院）
1983（S.58）	北沢洋子（国立大阪病院）、大音師淳子（阪和記念会館）、首藤佳子（星ケ丘厚生年金病院）
1984（S.59）	首藤佳子（星ケ丘厚生年金病院）、湯浅伸一（行岡保健衛生学園）、大音師淳子（阪和記念会館）、下浦敦子（国立大阪病院）
1985（S.60）	首藤佳子（星ケ丘厚生年金病院）、下浦敦子（国立大阪病院）、宮本摩知（西淀病院）
1986（S.61）	松本純子（住友病院）、北沢洋子（国立大阪病院）、林伴子（社保神戸中央病院）、山崎捷子（淀川キリスト教病院）
1987（S.62）	松本純子（住友病院）、林伴子（社保神戸中央病院）、山崎捷子（淀川キリスト教病院）
1988（S.63）	松本純子（住友病院）、山崎捷子（淀川キリスト教病院）、小川文子（関西鍼灸短期大学）
1989（S.64）	山室真知子（京都南病院）、山崎捷子（淀川キリスト教病院）、小谷喜美（八尾徳洲会病院）、栗谷正枝（松下記念病院）

15年間を振り返ってみると、複写機やコンピュータが普及したこと、またニューメディアの発達が情報化を促進したことなどにより社会は大きく変わってきた。このような病院図書室を取り巻く環境の変化は、研修会の内容や事例報告会で発表されるテーマなどからもうかがうことができる。

研修会のテーマ

設立当初1、2年（'75、'76）は実務中心のプログラムを組んでいるが、その後ニューメディアの影響を受けて、医学情報の検索や提供に主眼をおいた研修会が企画されるようになった。

公衆回線を使って端末機からオンライン文献検索ができるようになったのが1980年であるが、すでに1977年にはＪＯＩＳオンライン検索の実習を行っている。また、この頃からＭｅＳＨを初めとする医学用語や医学の基礎知識の研修会が継続して行われるようになった。二次資料やオンラ

インを使った文献検索には、医学的知識が必要であると考えたからである。

そして1980年半ば頃から、一部の図書室で業務にパソコンが利用されるようになり、事例報告会でもコンピュータを使った実例が報告されるようになった。第54回研修会でもコンピュータをテーマにした研修会が行われた。

図書室におけるコンピュータ利用は、今後さらに普及し、オンライン検索だけでなく、近い将来は、医学情報に関するコンピュータソフトやCD－ROMの利用も一般的となるであろう。実務中心に始まった研修会も15年を経過するうちに、コンピュータの時代を迎えるようになったといえる。

新人教育について

一方、これまで手作業で行っていた図書整理は簡略化される傾向にある。分類・目録・受入といった基礎的な実務の研修会は、研修指定病院が設置されたこと（1983）と「病院図書室マニュアル」が完成したこと（1984）などにより、ひとまず研修会からはずされることとなった。また1日で図書室実務全体を研修することや年2回（3回のうち1回は事例報告会なので）の研修会で取り上げることは無理であることもその理由の一つである。

一昨年行った「研修会に関するアンケート調査」によると、最も要望の多かったテーマが図書室業務のコンピュータ化であった。しかし、実務全般にわたる研修会の希望もいぜんと多い。経験の多少によって求める研修内容が異なるのは当然であり、新入会員や交替したばかりの新しい担当者の研修をどうするかという問題は、これまで何度も研修部で話し合われてきている。研修指定病院の見学や病院図書室マニュアルが実務の指導書として有効に活用されるよう、またこのような会員の要望が無視されないように、きっちりした方針のもとに新人教育を考えていかなければならない。

事例報告会

このように病院図書室概論から文献検索まで講義、実習による研修を行う一方、図書室担当者の自己研修や研究活動を促進する目的で、事例報告会が設立2年目から実施されるようになった。今日まで毎年1回、総会と同日に開催している。毎回5～6題の演題が出され、今日まで66題が発表されている。テーマは全体の約75%が、図書室の実務を含む図書室紹介で、それ以外ではアンケート、統計、その他の調査報告となっている。

このように、事例報告会は一応定着しているものの、演題募集に対する積極的な申し込みが少なく、研修部が演題集めに苦労しているのが現状である。仲間うちの気安いこのような会で演題発表に慣れ、図書館情報サービス研究大会や病院学会等、外部団体が行う学会発表など次のステップにすすんでもらいたいと思う。また、昭和63年度より発表者には助成金として5,000円が支給されるようになったので、多くの会員からの積極的な発表を期待したいものである。

ところで、病図協では研修部を中心として会全体で取り組んできた研修会がある。全国図書室研究会と中国四国地方研修会・名古屋研修会である。

Ⅱ　日本病院会全国図書室研究会（全国研）の開催

全国研は日本病院会主催の病院図書室担当者を対象とした研修会で、毎年1回開催されている。第1回が1978年に東京で行われ、これまでに病図協は12回のうち5回を共催して大阪と京都で行ってきた。1回目は1979年でそののち1982年からは隔年に共催している。

病図協が共催するようになった動機は、日本病院会図書室部会から協議会に対して、第2回全国研を近畿地区で開きたいので運営委員を選出してほしいとの依頼があったことに始まる。これについては、2つの団体の組織が違うことから、会として運営委員を派遣することはむずかしいので、病図協が協力するという「共催」の形をとることとなった。5回とも企画・運営は病図協が行い、定例研修会の一環として行ってきた。

これまでの全国研の日程は2日間、8～9月に開催、特徴としてはパネルディスカッションやシンポジウムといった討論会形式をかならず入れていることである。それぞれのテーマは「病院図書

室の将来像を考える（ 1979 ）」、「卒後教育に果たす病院図書室の役割（ 1982 ）」、「図書委員会の現状と課題（ 1984 ）」、「相互協力網を作るために ― 病院図書室が今すべきこと、できること（ 1986 ）」、「病院におけるライブラリアンシップ（ 1988 ）」であった。「病院におけるライブラリアンシップ」は図書室職員としての専門性を見直すことにあり、図書室担当者のみのシンポジウムであったが、他の4回は、いずれも病院図書室に焦点をあて、病院管理者、図書室利用者、大学関係者などの参加を得て図書室の問題について話し合っている。1977年の第13回研修会でもパネルディスカッション「病院図書室を考える」を行っているが、病院図書室のあり方を担当者以外の関係者にも考えてもらうよい機会であり、企画する意義はあると思う。

4月の企画・立案に始まり病院会と連絡、打ち合せをしながら、講師の選定、依頼などを行う。研修部にとっては、約4カ月の準備期間はかなりハードスケジュールといえよう。しかし、定例研修会では取り組めないプログラムを企画できることや、全国から集まる病院図書室の担当者と情報交換や親睦を深めるよい機会でもあり、これまで開催した成果は充分あったと思う。ただし、参加者は60～80名のうち病図協の会員が25～6名と少なく、これは参加費が高いことや2日間の休みがとりにくいことなどが原因と考えられる。

全国研の記録は、1984，1986，1988 年が会誌「病院図書室」に特集として組まれている。

Ⅲ　中国四国地方研修会・名古屋研修会

病図協は今までに拡大研修会の形で、近畿地区の外へ出て2つの研修会を開催している。中国四国地方研修会（ 1983.4 ）と名古屋研修会（1989.10）であるが、いずれも定例研修会とは別に行われた。目的は、これらの地区には病院図書室の組織がないので、各地区のネットワーク作りのきっかけを作ること、また病院図書室相互の連携を広めることにあった。

中国四国地方研修会は当時日本医学図書館協会（ＪＭＬＡ）に病院図書室を含むネットワーク形成の動きがあったことが動機となった。ＪＭＬＡ中国四国部会の後援を受けて行った背景には、病院図書室もそのようなネットワークに参加できる体制づくりを行う必要性があったからである。

案内状は中・四国、九州の200床以上の病院に送り、参加者は49名（中・四国29名、近畿10名、ＪＭＬＡ10名）であった。プログラムは、病院側から病院図書室の役割・業務と図書室紹介、大学側からは中・四国地区の病院図書室の実態調査報告と大学における相互貸借についてであったが、大学図書館と病院図書室の協力・連携の重要性が説かれた研修会であった。その後中・四国地区でのネットワーク化の動きは聞かれないが、現在も上記病院への研修会案内は続けられており、毎年この地区からの参加者もある。

名古屋研修会は、東海地区を対象に愛知・岐阜・三重・静岡・福井・長野の200床以上（愛知100床以上）の病院に案内状を送付し、54名（会員21名、非会員33名）と予想以上の参加があった。研修内容は病院図書室の現状と基礎的業務を主眼としたものであった。

どちらの研修会にも管理者のかたが受講されており、このような研修会が病院図書室を理解してもらう一助となれば幸いである。また全国研やこのような研修会への参加を契機として、病院図書室間の交流が少しずつ広がり、各地区において病院図書室のネットワーク形成がなされるようになれば大変喜ばしいことである。

Ⅳ　これからの課題

会員数も設立当初の約3倍となり、近畿地区外の会員も増えた。会員の図書室はそのおかれている状況もさまざまであり、担当者の勤務年数、勤務形態なども異なる。このようなことからも研修会への要望や期待が多様化してくるのは当然である。また、コンピュータが病院図書室にも導入される時代になり、将来、図書室間の格差は更に広がるのではないかと思う。

一方では、ニューメディアの利用法など、外部機関がかなり充実した研修会を行うようになった。横のつながりもなく、研修機会も少なかった頃から考えると、今日のように多くの研修会が開催されるようになって、受講者も研修会を選ぶ時代に

変わってきている。

会員の要望を取り入れながら時宜にかなった研修会を開催することは大切である。どこに研修会の焦点をおくかが研修部の企画・運営上のむつかしさであるが、新人教育も合わせて、おもいつきではなくきっちりした方針のもとに企画、運営がなされなければならないと思う。

また、研修部は会の組織拡大やネットワーク形成にも一役をになってきた。そのために、中国四国や名古屋のような他地区での研修会を行ってきたことは前に述べた通りである。会の運営方針にも関わってくるが、ネットワーク形成のきっかけをつくる上で、このような研修会が何らかの役割を果たすのであれば、今後も開催機会をもってもよいのではないだろうか。

協議会研修会記録

第1回研修会から第57回研修会までの記録を開催順にまとめた。

1. 研修会記録は回、プログラム、開催年月日の各項目についての記録である。
2. 講師、発表者等の敬称は省略した。
3. 講師、発表者が協議会会員、担当者の場合は原則として施設名のみ記し、所属部署や職名は省略した。ただし、紛らわしい場合や必要のある場合は併記した。
4. 開催地は原則として省略したが、日本病院会全国図書室研究会のみ開催地、会場を記した。

（浜　口　恵　子）

回	プログラム・講師・発表者	開催年月日
1	病院図書室の在り方と職員の任務 朴木　貞子　（元北野病院図書室司書）	1975. 1. 24
2	分類・目録業務について 古原　雅夫　（京都大学医学図書館） 近藤禧彦男　（　同　上　）	1975. 2. 28
3	分類・目録業務とその問題点（事例研究）	1975. 3. 20
4	閲覧・貸出業務について 天満隆之輔　（枚方市立図書館館長） 渡辺　勲　（大阪府立夕陽ケ丘図書館）	1975. 5. 17
5	逐次刊行物の受入と配架 江崎　正　（神戸大学附属図書館医学部分館）	1975. 6. 20
6	閲覧貸出方法と逐刊受入方法の問題点（事例研究）	1975. 7. 22
7	レファレンス・サービスについて－中之島図書館（阪大）の実情を中心に－ 尾崎　一雄　（大阪大学附属図書館中之島分館）	1975. 9. 18
8	医学研究活動と文献探索－方法と実際－ 吉本　瑞応　（奈良県立医科大学附属図書館）	1975. 11. 4
9	病院図書室のルーティン・ワークについて 本田　品子　（国立がんセンター図書館）	1976. 4. 15
10	製本について 和田十三子　（極東バインダリー）	1976. 6. 22
11	和書・洋書の基本的な目録のとり方 近藤禧彦男　（京都大学医学図書館）	1976. 9. 27
12	事例報告会 (1)　二人勤務の仕事の分担 松本　純子　（住友病院）	1977. 1. 26

回	プログラム・講師・発表者	開催年月日
12	(2) 和雑誌の直送 加島　民子　（大阪回生病院） (3) 洋雑誌の直接購読 山崎　捷子　（淀川キリスト教病院） (4) 図書室利用状況 杉田奈津枝　（松下健保管理センター） (5) 帯出期限が切れた場合の貸出し停止処置について 福味美津子　（国立大阪病院） (6) 長期貸出について－アンケート調査より－ 重富　久代　（京都市立病院） (7) 大津赤十字病院図書室における分類記号変更作業の実態 －独自分類よりＮＬＭ分類へ－ 福井ゆき子　（大津赤十字病院） (8) 予算の配分と選書－星ケ丘厚生年金病院の実状と問題点－ 川原　佳子　（星ケ丘厚生年金病院）	1977. 1. 26
13	(1) パネル・ディスカッション：病院図書室を考える <パネリスト> 水川　　孝　（国立大阪病院院長） 杉本　顕俊　（住友病院図書部長） 長門谷洋治　（日生病院病歴図書部長） 中新井邦夫　（星ケ丘厚生年金病院泌尿器科部長） 川原　佳子　（星ケ丘厚生年金病院司書） (2) 講演：院内教育における病院図書室の役割 日野原重明　（聖路加看護大学学長）	1977. 7. 21
14	米国国立医学図書館分類法（ＮＬＭＣ） 河島　裕子　（国立がんセンター図書館）	1977. 10. 24
15	コンピュータによる文献検索 矢部　之男　（日本科学技術情報センター）	1977. 12. 15
16	(1) 病院図書室改革への手がかり 朴木　貞子　（スペシャル・ライブラリー研究所） (2) 事例報告会 ① 耳原総合病院図書室の現状と課題 上原　美幸　（耳原総合病院） ② 外国雑誌の購読価格の違いについて 千住とも子　（日生病院） ③ 大津赤十字病院図書室のスタッフマニュアル作成にあたって 福井ゆき子　（大津赤十字病院） ④ 図書室のＰＲ－新着案内、図書室月報など－ 山室真知子　（京都南病院）	1978. 2. 24

回	プログラム・講師・発表者	開催年月日
17	病院図書室業務のあらまし (1) 図書室の年間業務 小田中徹也 （国立京都病院） (2) 単行書の管理と利用 松本 純子 （住友病院） (3) 雑誌の管理と利用 福味美津子 （国立大阪病院） (4) 参考業務 山室真知子 （京都南病院） (5) 参考業務 加島 民子 （大阪回生病院）	1978. 6. 29
18	文献の機械検索のために（その１） －初心者のために Index Medicus MeSHを中心にして－ 加島 民子 （大阪回生病院）	1978. 11. 30
19	事例報告会 (1) 地方病院における図書室オープン一年目を迎えて 岡前久美子 （高山赤十字病院） (2) 図書センター第二期にあたって 北村きみえ （松下健保管理センター） (3) ＪＯＩＳによる文献検索 吉田美知子 （京都桂病院） (4) 関西地区における臨床研修指定病院の図書室について －アンケート調査－ 小田中徹也 （国立京都病院） 福味美津子 （国立大阪病院） 川原 佳子 （星ケ丘厚生年金病院）	1979. 3. 24
20	図書室の設計について 木村 伸夫 （滋賀医科大学図書館）	1979. 5. 28
21	日本病院会全国図書室研究会（大阪・大阪府医師会館） (1) 特別講演：プライマリーヘルスケアと情報活動 丸地 信弘 （東京大学医学部助教授） <座長> 水川 孝 （国立大阪病院院長） (2) Reference Work －いかにして利用者の要求に答えるか－ ① 大学医学図書館Reference Workのフレーム 宮岸 朝子 （大阪大学附属図書館中之島分館） ② Research LibraryにおけるReference Workの実情 林 源司 （愛知県立がんセンター） ③ 一般総合病院における利用サービス 松本 純子 （住友病院）	1979. 8. 29～30

回	プログラム・講師・発表者	開催年月日
21	④ 地方病院の図書室活動 岡橋　郁子　（社会保険広島市民病院） ⑤ 中小病院の図書室活動－特に患者サービスを中心に－ 山室真知子　（京都南病院） (3) パネル・ディスカッション：病院図書室の将来像を考える <パネリスト> ① 厚生省の立場から 大森　文夫　（厚生省国立病院課課長補佐・技官） ② 病院管理者の立場から 小河　一夫　（京都南病院院長） ③ 利用者の立場から 博田　節夫　（国立大阪南病院整形外科医長） ④ 大学図書館の立場から 松浦　　正　（大阪大学附属図書館中之島分館業務主任） ⑤ コンサルタントの立場から 朴木　貞子　（スペシャル・ライブラリー研究所） ⑥ 担当者の立場から 後藤　久夫　（東京都立養育院附属病院図書室） <座長> 小田中徹也　（国立京都病院図書室） (4) 図書室実務－実習および展示－	1979. 8. 29～30
22	(1) 事例報告会 ① 全職員が利用できる図書室をめざして－医局図書室から病院図書室へ－ 上原　美幸　（耳原総合病院） ② 島根県立中央病院図書室の紹介とＮＬＭ分類変更の経過報告 石崎　久恵　（島根県立中央病院） ③ 病院図書室の相互貸借について 北沢　洋子　（国立大阪病院） ④ Index Medicus からみたMedical Library に関する文献調査 千住とも子　（日生病院） (2) 記念講演：病気とは何か－病理学の立場から－ 杉本　顕俊　（住友病院病理部長）	1980. 3. 29
23	(1) 講演：医学用語の基礎知識 1. 癌と腫瘍 杉本　顕俊　（住友病院病理部長） (2) 相互貸借について ① 相互貸借についての一般的概要 泉谷　嗣郎　（大阪赤十字病院） ② 病図協および住友病院における相互貸借の現況報告 松本　純子　（住友病院）	1980. 6. 19

回	プログラム・講師・発表者	開催年月日
23	③ 相互貸借申込ハガキの作成について（実習） 北村きみえ （松下健保管理センター） ④ 全体討議	1980. 6. 19
24	(1) 講演：医学用語の基礎知識2. 炎症 杉本 顕俊 （住友病院病理部長） (2) レファレンス・サービスについて ① レファレンス・サービスについて 首藤 佳子 （星ケ丘厚生年金病院） ② 病院図書室におけるレファレンス・サービスの実際 山室真知子 （京都南病院） ③ 討論会	1980. 10. 13
25	二次資料の使い方 (1) 医学中央雑誌の使い方 木下 順一 （大阪市立大学附属図書館医学部分館） (2) Index Medicus の使い方 土屋 久子 （ 同 上 ） (3) 機械検索について 土屋 久子 （ 同 上 ）	1981. 1. 14
26	(1) 事例報告会 ① 病院・看護図書室関係文献検索の一方法－内外の主要二次資料を中心に－ 湯浅 伸一 （行岡保健衛生学園） ② 洋雑誌購入価格決定方法についての一報告 泉谷 嗣郎 （大阪赤十字病院） ③ 小病院図書室の現状と当面の課題 安達貴美子 （西淀病院） ④ User Study (1) －病院スタッフの情報入手の動向－ 首藤 佳子 （星ケ丘厚生年金病院） (2) 講演：医学用語の基礎知識3. 腫瘍，炎症 杉本 顕俊 （住友病院病理部長）	1981. 3. 28
27	(1) 講演：図書館員の基本的な姿勢 朴木 貞子 （スペシャル・ライブラリー研究所） (2) 医学雑誌総合目録作成経過報告 小田中徹也 （国立京都病院） (3) ディスカッション：相互貸借に関する諸問題について <司会> 秦 千絵里 （宇治徳洲会病院） (4) アンケートの結果報告 泉谷 嗣郎 （大阪赤十字病院）	1981. 6. 18

回	プログラム・講師・発表者	開催年月日
28	病院図書室基礎講座 (1) 近畿病院図書室協議会の紹介 加島　民子　（大阪回生病院） (2) 病院図書室の管理と運営　（総論） 小田中徹也　（国立京都病院） (3) 資料の選択と発注－基本図書およびコア・ジャーナル－ 千住とも子　（日生病院） (4) 単行本の整理と利用 松本　純子　（住友病院） (5) 逐次刊行物の整理と利用 山室真知子　（京都南病院） (6) 病院図書室のレファレンス・ワーク－相互貸借および文献検索を含めて－ 首藤　佳子　（星ケ丘厚生年金病院）	1981. 9. 22
29	(1) オンライン検索の基礎 松尾　弘貴　（ＪＩＣＳＴ大阪支所） (2) 病院図書館（室）員に必要な医学知識の効果的な学び方－Me SHによる医学用語の修得について－ 堀江　幸司　（東京女子医科大学図書館）	1982. 1. 29
30	(1) 事例報告会 ① 過去4年間の院外依頼文献の分析 首藤　佳子　（星ケ丘厚生年金病院） ② 年次統計の集計報告 松本　純子　（住友病院） 林　　伴子　（社会保険神戸中央病院） ③ 病院図書室のＰＲ誌 北村きみえ　（松下健保管理センター） 大音師淳子　（阪和病院） ④ 病院の図書室空間 小田中徹也　（国立京都病院） (2) 特別講演：病院図書室の医療への役割 水川　　孝　（元国立大阪病院院長）	1982. 3. 27
31	(1) 講演：電子顕微鏡による細胞の微細構造とその用語について 佐々木正道　（大阪赤十字病院病理部長） (2) 病院図書室における統計 ① 病院図書室に必要な統計業務 小田中徹也　（国立京都病院） ② 病図協の年次統計 林　　伴子　（社会保険神戸中央病院）	1982. 6. 29

回	プログラム・講師・発表者	開催年月日
31	③ 統計のとり方（ディスカッション）－各図書室での工夫－ <司会> 安達貴美子 （西淀病院）	1982. 6. 29
32	日本病院会全国図書室研究会（大阪・日生病院） (1) 病院図書室の実務 ① 単行書の整理と利用 松本 純子 （住友病院） ② 逐次刊行物の整理と利用 山室真知子 （京都南病院） ③ レファレンス・サービス 加島 民子 （大阪回生病院） ④ 相互貸借 林 伴子 （社会保険神戸中央病院） (2) パネル・ディスカッション：卒後教育に果たす病院図書室の役割 <パネリスト> 福間 誠之 （京都第一赤十字病院脳神経外科部長） 江上 芳子 （兵庫県立こども病院幼児病棟婦長） 金尾 啓右 （住友病院アイソトープ検査室主任技師） 首藤 佳子 （星ケ丘厚生年金病院図書室） <座長> 水川 孝 （大阪大学名誉教授）	1982. 8. 27～28
33	ＮＬＭＣ（米国国立医学図書館分類法）－講演と実習－ 高野 史子 （東京医科大学図書館）	1982. 11. 27
34	(1) 事例報告会 ① 医学中央雑誌を使った文献検索サービス－過去２年間のまとめ－ 北沢 洋子 （国立大阪病院） ② 大阪赤十字病院の図書室業務マニュアルを作成してみて 泉谷 嗣郎 （大阪赤十字病院） ③ 目録カード作成の合理化－国立国会図書館の印刷カードを利用して－ 山室真知子 （京都南病院） ④ 私の図書室での工夫 中村 雅子 （大阪府立母子保健総合医療センター） (2) 特別講演：図書館業務のコンピュータ化 井関 泰夫 （大阪大学附属図書館中之島分館）	1983. 3. 26
35	(1) 講演：プロフェッションへの道 吉本 瑞応 （奈良県立医科大学附属図書館次長） (2) 新版「医学中央雑誌」の使い方 加島 民子 （大阪回生病院）	1983. 6. 23

回	プログラム・講師・発表者	開催年月日
35	(3) 病図協の研修体制について 北沢　洋子　（国立大阪病院）	1983. 6. 23
36	(1) 講演：医学史のエピソード 中川　米造　（大阪大学医学部教授） (2) 映画：図書館 (3) 講演：薬物ショック 小椋　　進　（星ケ丘厚生年金病院麻酔科医長） (4) 映画：消化器のしくみ	1983. 9. 29
37	実務のポイントー様式を中心にしてー (1) 資料の選択と収集 小田中徹也　（国立京都病院） (2) 単行書の受入から整理まで 松本　純子　（住友病院） (3) 雑誌の受入から整本まで 山室真知子　（京都南病院） (4) 閲覧と貸出 山室真知子　（同　　上） (5) レファレンス・サービス 加島　民子　（大阪回生病院） (6) 相互貸借について 林　　伴子　（社会保険神戸中央病院）	1984. 1. 12
38	(1) 事例報告会 ① 図書室実務研修病院の役割ー社会保険広島市民病院の場合ー 岡橋　郁子　（社会保険広島市民病院） ② 和雑誌総合目録のコンピュータ編集 加島　民子　（大阪回生病院） 湯浅　伸一　（行岡保健衛生学園） ③ 病院図書室マニュアルの作成について 浜口　恵子　（高槻赤十字病院） ④ 就業意識についてーアンケート調査結果よりー 北沢　洋子　（国立大阪病院） ⑤ 近畿病院図書室協議会の10年の歩み 山室真知子　（京都南病院） ⑥ 病院図書室運営についての一提言 泉谷　嗣郎　（大阪赤十字病院） ⑦ 耳原総合病院の図書室の歩みと今後の課題 黒川　淳子　（耳原総合病院） (2) 記念講演：情報時代と日本語 樺島　忠夫　（大阪府立大学総合科学部教授）	1984. 3. 24

回	プログラム・講師・発表者	開催年月日
39	(1) 医学の基礎知識3. 正常と異常、ガウスの幽霊 井唯 信友 （国立京都病院臨床研修部長） (2) 図書室業務のコントロール 朴木 貞子 （スペシャル・ライブラリー研究所） (3) パンフレット、リーフレットの整理 渡辺 幸子 （滋賀医科大学附属図書館）	1984. 6. 29
40	日本病院会全国図書室研究会（大阪・大阪電信電話会館） －病院図書室の管理と運営－ (1) 図書室運営のための基礎資料－その種類と作成方法－ 山室真知子 （京都南病院） (2) シンポジウム：図書委員会の現状と課題 <シンポジスト> ① 図書委員会の役割とその運営 佐々木正道 （大阪赤十字病院第二検査部長） ② 収書の考え方と方法 田伏 薫 （星ケ丘厚生年金病院神経科部長） ③ 資料提供の考え方と方法 重富 久代 （京都市立病院図書室） ④ 利用統計からみた図書室の評価と新たな企画－北野病院、1980年度資料の分析より－ 植手 鉄男 （北野病院臨床検査部長） ⑥ 図書委員会における司書の役割 足立 純子 （聖路加国際病院図書室） <座長> 小河 一夫 （京都南病院院長） (3) 図書室の広報活動 ① 事例1. オリエンテーションの実際 奥出 麻里 （川崎製鉄健保組合千葉病院） ② 事例2. 館報・速報の発行について 安達貴美子 （西淀病院） ③ 展示見学 (4) 各種図書館の機能とその利用方法 ① 国立国会図書館 田辺由太郎 （国立国会図書館連絡部長） ② 大阪府立夕陽ケ丘図書館 鈴木 永二 （大阪府立夕陽ケ丘図書館閲覧第一係長） ③ 大阪大学附属図書館中之島分館 石川 亮 （大阪大学附属図書館中之島分館医学情報課課長） ④ ＪＩＣＳＴ 村上 秀憲 （ＪＩＣＳＴ大阪支所主事）	1984. 9. 7～8

回	プログラム・講師・発表者	開催年月日
40	⑤ 日本看護協会図書室 山添　美代　（日本看護協会図書室室長）	1984. 9. 7～8
41	医学出版情報の探し方（講義と実習） (1) 講義：医学出版情報の探し方 岩本　博　（福井医科大学附属図書館図書係長） (2) 実習：医学出版情報の探し方－さまざまなトゥールを使って－ (3) 病院図書室マニュアル「医学資料の整理と利用」について	1985. 1. 10
42	(1) 事例報告会 ① 大阪労災病院図書室の現状と課題 －特に医局兼務の立場から－ 松井美抄枝　（大阪労災病院） ② 図書室の予算事務 山口タツ子　（大阪逓信病院） ③ 滋賀県下の市立病院における図書室の立場 吉川　信子　（市立長浜病院） ④ 病院図書室の仕事－大学図書館と比較して－ 宮本　摩知　（西淀病院） ⑤ 図書室のスペースと資料の廃棄－住友病院の現状と課題－ 松本　純子　（住友病院） (2) 特別講演：マイコンは何ができるか？ どのように使うのだろうか？ 林寺　忠　（国立京都病院小児科医長）	1985. 3. 27
43	(1) 医学の基礎知識 4. 肝炎ヴィールスについて 船橋　修之　（国立大阪病院第一臨床検査部長） (2) 医学資料の種類と活用の仕方－印刷体資料について 湯浅　伸一　（行岡保健衛生学園） (3) 医学資料の種類と活用の仕方－非印刷体資料について－ 首藤　佳子　（星ケ丘厚生年金病院）	1985. 6. 27
44	学術雑誌の発生と科学コミュニケーションに果たす役割 山崎　茂明　（東京慈恵会医科大学医学情報センター助手）	1985. 9. 12
45	(1) 資本の選択・発注及び廃棄 浜口　恵子　（高槻赤十字病院） (2) 図書館蔵書の評価と収集 井出　唯敬　（兵庫医科大学図書館）	1985. 12. 19
46	(1) 事例報告会 ① 当図書室の紹介 飯島　道子　（愛仁会看護専門学校） ② 学生への文献検索講義－リハビリテーション科学生を対象にして－ 湯浅　伸一　（行岡保健衛生学園） 田中千代子　（　同　　上　）	1986. 3. 26

回	プログラム・講師・発表者	開催年月日
46	③ 当大学の蔵書構成と利用状況について 織田　忍（明治鍼灸大学） ④ 文献からみた病院図書室の歩みとその動向 藤谷美智子（兵庫県立成人病センター） ⑤ パソコンによる図書館管理システム 山崎　捷子（淀川キリスト教病院） ⑥ 図書室におけるパソコン利用の試みーナショナルC7000Dを使用してー 西村　和代（京都南病院） 山室真知子（　同　上　） (2) 特別講演：行政改革と図書館員 芝田　正夫（関西学院大学社会学部助教授）	1986. 3. 26
47	日本病院会全国図書室研究会（京都・京都教育文化センター） ー図書館の相互協力ー (1) 各種図書館団体の相互協力 ① 医学図書館と病院図書室の相互協力ー病院図書室の実態調査をふまえてー 光斎　重治（大阪市立大学附属図書館医学部分館主査） ② 専門図書館における相互協力の現状と課題 妹尾　哲男（松下電器産業㈱技術本部技術情報室長） ③ コンピュータを用いた「近畿病院図書室協議会雑誌総合目録」の作成 加島　民子（大阪回生病院図書室） ④ 公共図書館の相互協力 前田　章夫（大阪府立中之島図書館） ⑤ 阪神地区私立大学の相互利用について 久保　雅洋（大阪産業大学図書館） ＜司会＞ 松本　純子（住友病院図書室） (2) シンポジウム：相互協力網を作るためにー病院図書室が今すべきこと、できることー ＜シンポジスト＞ ① 病院図書室間の相互協力ー収集上の協力を中心としてー 浜口　恵子（高槻赤十字病院図書室） ② 地域における大学医学図書館と病院図書室の連携 山口直比古（浜松医科大学附属図書館運用係長） ③ 病院図書室への期待ー利用者の立場からー 青山ヒフミ（淀川キリスト教病院教育婦長） ④ 図書館員の交流 後藤　久夫（東京都老人医療センター図書室）	1986. 9. 12～13

回	プログラム・講師・発表者	開催年月日
47	<座長> 曽我　啓一　（社会保険神戸中央病院院長舗佐兼図書委員長） (3)　講演：情報ネットワーク 松村多美子　（図書館情報大学教授） <司会> 梅垣　健三　（星ケ丘厚生年金病院院長・近畿病院図書室協議会会長）	1986. 9. 12～13
48	(1)　医学の基礎知識 5.　人工臓器と脳死 北村　信夫　（国立大阪病院心臓血管外科医長） (2)　資料の整理（単行書、分類法）－米国国立医学図書館分類法（ＮＬＭＣ）について－ 松本　純子　（住友病院）	1986. 12. 19
49	(1)　事例報告会 当　①　当血液センター図書室の紹介 川崎　敬子　（大阪府立赤十字血液センター） ②　本学図書館の紹介 小川　文子　（関西鍼灸短期大学） ③　相互貸借業務について－後任への引継ぎマニュアル－ 徳田　雅子　（大阪府立母子保健総合医療センター） ④　雑誌の発行年別利用状況　その１ 北沢　洋子　（国立大阪病院） ⑤　和雑誌特集記事のサイクル－総合雑誌５誌について－ 林　　伴子　（社会保険神戸中央病院） (2)　特別講演：コンピュータとレファレンス・ワーク－尼崎市立北図書館のケースを通して－ 藤井　千年　（尼崎市立北図書館館長）	1987.　3. 26
50	(1)　講演：最近の米国医学図書館を垣間見て 岩本　　博　（大阪大学附属図書館中之島分館医学情報課目録掛長） (2)　医学の基礎知識 6.　精神医学について 宮崎　　浄　（大阪逓信病院精神科部長） (3)　「米国国立医学図書館分類法（ＮＬＭＣ）第４版改訂版・日本語版」について 松本　純子　（住友病院）	1987.　6. 25
51	(1)　データベースについて 三輪真木子　（㈱エポックリサーチ社長） (2)　逐次刊行物－特集記事の扱い方を中心にして－ 山室真知子　（京都南病院）	1987. 10. 24
52	(1)　事例報告会	1988.　3. 23

回	プログラム・講師・発表者	開催年月日
52	① 当院図書室の現状と問題点 村田賛千子 （西陣病院） ② 1年間の図書室業務を振り返って 北崎 知子 （愛仁会看護専門学校） ③ 看護文献の検索用パンフレットの紹介 加島 民子 （大阪回生病院） ④ 看護文献の検索・入手の問題点 首藤 佳子 （星ケ丘厚生年金病院） ⑤ 図書室業務へのパソコン利用－1年間の試みから－ 重富 久代 （京都市立病院） ⑥ 病院医学雑誌発行手順の紹介－主に事務的な作業面から捉えて－ 泉谷 嗣郎 （大阪赤十字病院） (2) 特別講演：脳のはなし 亀山 正邦 （住友病院院長）	1988. 3. 23
53	日本病院会全国図書室研究会（大阪・大阪科学技術センター） －病院におけるライブラリアンシップ－ (1) シンポジウム：病院におけるライブラリアンシップ <シンポジスト> ① 司書の養成教育について 杉森 弘子 （昭和大学附属烏山病院） ② 運営と管理 岡橋 郁子 （社会保険広島市民病院） ③ レファレンス・サービス 加島 民子 （大阪回生病院） ④ 資料の選択・収集－現状と課題－ 笠原 廣子 （名古屋第一赤十字病院） <司会> 首藤 佳子 （星ケ丘厚生年金病院） 重富 久代 （京都市立病院） (2) 特別講演：これからの医療と病院図書室の役割 白方 誠弥 （淀川キリスト教病院院長） <司会> 梅垣 健三 （星ケ丘厚生年金病院院長・近畿病院図書室協議会会長） (3) 講演：J－BISKを中心としたCD－ROM製品について 浮田 克之 （丸善㈱大阪支店） 加藤 敏郎 （ 同 上 ） (4) 講演：レファレンス・サービスの実際 岩本 速雄 （大阪大学附属図書館中之島分館参考調査協力掛長）	1988. 9. 9～10

回	プログラム・講師・発表者	開催年月日
54	図書室業務のコンピュータ化に向けて (1) 事例紹介：小規模図書館におけるパソコンの活用について 堀田起世子 （京都大学医学図書館） (2) 事例紹介：dBASEⅢによる図書管理システム 野原 千鶴 （済生会下関総合病院） (3) ブレインテックの図書管理システムについて ブレインテック㈱ (4) ディスカッション：図書業務のコンピュータ化について	1989. 1. 19
55	(1) 事例報告会 ① 淀川キリスト教病院における中央図書室の役割とコンテンツサービス 山崎 捷子 （淀川キリスト教病院） ② コンピュータを使った雑誌管理－製本作業を中心に－ 徳田 雅子 （大阪府立母子保健総合医療センター） ③ 新聞記事の医療情報に関する調査報告 首藤 佳子 （星ケ丘厚生年金病院） ④ ネットワーク研究について－ネットワーク研究班中間報告－ 小田中徹也 （国立京都病院） ⑤ 貸出票からみた看護職員の図書利用状況 木下久美子 （高山赤十字病院） (2) 特別講演：加齢と皮膚 須貝 哲郎 （大阪回生病院皮膚科嘱託部長）	1989. 3. 30
56	(1) 文献の相互貸借について－所蔵調査と依頼の方法－ 林 伴子 （社会保険神戸中央病院） (2) 医学の基礎知識：MRIについて 根本 裕 （南大阪病院放射線科医長） (3) 病院で利用する参考図書 首藤 佳子 （星ケ丘厚生年金病院）	1989. 7. 4
57	文献検索入門（講義・実習） 加島 民子 （大阪回生病院）	1989. 12. 2